

生きる力育め 塾購入

体験を子どもへの教育に生かそうと無人島を購入した学習塾の経営者がいる。全国に2万人の会員がいる「花まる学習会」（本部・さいたま市）代表の高濱正伸さん（61）だ。

広島県東広島市の港から瀬戸内海を船で20分。現れたのが、こもりと緑が茂る来島（大崎上島町）だ。東京ドーム2個分の広さで、砂浜も広がる。

高濱さんは7月、4カ月ぶりに上陸した。島は長年手つかずで、探索しようと密林を進むが、青々とした木々に阻まれる。「開拓しがいがあるな」と笑った。

1993年に塾を設立した当時から、野外体験に力を入れている。子ども「生きる力」を育むため、キャンプや川遊びなどのサマースクールを毎年開く。

活動拠点にしようと、島を今春、数千万円で購入したという。「キャンプの究極は無人島。野外の多様性や危険と向き合わせ、最後までやり抜く力、『地頭』を伸ばしたい」と強調する。

今夏から活動を始めようとしていたが、新型コロナウイルスの影響で断念した。今秋から保護者を中心にボランティアを募り、「無人島開拓団」を結成して、歩道を整備したり、丸太小屋を造ったりする計画で、すでに希望者は殺到しているという。

「大学生になるまでに自分でテントを張り、魚を釣ってさばいて食べられるようになれると、かっこよくなる」と将来を見据える。子どもたちの活動は来夏には始める予定だ。